

## I 特別活動 研究テーマ

仲間との関わりを主体的に求め、学校生活の充実と向上を目指す子どもを育む学び  
～よりよい人間関係を形成する学級活動を通して～

## II 研究の重点

よりよい合意形成につながる省察のものさしを更新するための手立て

## III 2年次の成果と課題

### 1 成果

#### (1) 一人一人の考えを生かしながら多くの納得を得られる考えをつくり出す学習展開の工夫

2年次の研究では、課題となっていた話し合い活動の「決める」段階でいかにして一人一人の考えを生かしながら多くの納得を得られる考えをつくり出すかに焦点を当てた。そこで、よりよい意見を決定した後、「納得度メーター」を用いて自分の考えを可視化させ、納得度の低い児童の意見を聞く場を設定した。そして、一人一人の考えを生かした合意形成となるように、異なる立場同士の交流を行った。

この手立てを講じることによって、納得度の低い児童は納得できない問題点を考え、納得度の高い児童はどうしたら納得してもらえるかを考え、互いに譲歩したり妥協したりしながら考えをすり合わせ、話し合いを進める姿が見られた。これらの交流を行うことで、一人一人が納得度を上げていき、話し合いが終わった時点で多くの児童の「納得度メーター」が100パーセントを表していた。このように異なる立場同士の交流を位置付けたことが、より多くの納得を得る案を考える姿に結び付いた。これは、「納得度メーター」を基にした交流活動で、納得度の低い友達の考えを引き出したり、考えた案に納得できるか確かめたりする働き掛けを行ったからだと考える。

#### (2) 事前から事後の活動までの一連の活動を通して、改善点を見いだす省察の工夫

事後の、決まったことを実行してから振り返るまでの活動では、事前から事後の活動までを一連の活動と捉えて、改善点を見いだすことができるように、振り返りカードに、実践から見えた成果や成長、課題を記入する欄を設け、学級全体で共有し、課題を解決する場面を設定した。

これまでは、活動の始めにめあてを設定していたため、前回の活動の振り返りが生かされていることが少なく、明確な根拠のないめあての設定になってしまっていた子どもが多かった。活動の振り返りの際に、次の活動への課題を発見し、そのことをめあてとすることで、活動をつなげて考えている記述が増えた。このように今回の活動についての振り返りと同時に、次の活動のめあてについて考えることを繰り返すことによって、一連の活動として、つながりを意識できるようになった。このことから自分の成長や課題を実感できるように振り返りカードに示したことは、一連の活動を通して、改善点を見いだすために有効であったと考える。

### 2 課題 共通理解したことを基に、合意形成を図る授業構想

多くの子どもの考えを引き出すことはできたが、全ての子どもが自分の考えをもって学級活動に参加することが課題である。これまで発言することに課題があった子どもも、自分の考えを積極的に友達に伝えることができるよう、事前に意見を可視化し共通理解する場を設定し、話し合いに進んで参加し、自分の意見を安心して伝えながら合意形成を図ろうとすることができるような授業構想を模索したい。